

丈佑准教授が講師を務め、「異文化コミュニケーション〜アンステレオタイプと多様性の追求〜」と題して、ステレオタイプの成り立ちやその影響など、アンコンシヤス・バイアスを巡る問題点を解き明かした。

第1回セミナーには教職員と学生ら約70名が参加。新たな視点や気付きを得た参加者からは「知る努力、受け入れる努力をする必要

があると感じた」「今回のお話で、さらに興味を覚えた」との声が聞かれるなど、今後のセミナーに期待が寄せられた。



第1回セミナーの講師を務めた池田准教授

### TA・TSの活用 上教大がFD講演会

上越教育大学は10月27日に、早稲田大学人間科学学術院人間科学部の森田裕介教授を講師として、「令和3年度フアカルティ・デイベロップメント講演会」を開催した。写真Ⅱ。

同講演会は、授業・研究指導の内容や方法の改善を図ることを目的として毎年行っているもの。今年度は新型コロナウイルスの講義室をオンラインで結んで実施した。

今年度は、「ICTを活用したアクティブ・ラーニングの具体例とTA・TSの活用」と題して、ハイブリッド授業への潮流及びハイブリッド授業とTA・TSの活用について講師から講演が行われた。

この講演会には教職員及び学生135人が出席。参加した教員からは、「TA等を活用した授業の参観を推進することが必要であると思った」や「高等教育レベルのアクティブ・ラーニングのあり方を考えていく必要がある」といった感想が寄せられた。



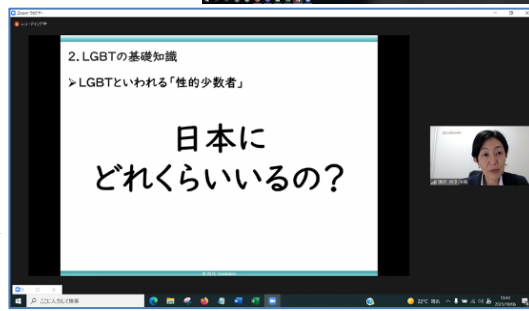
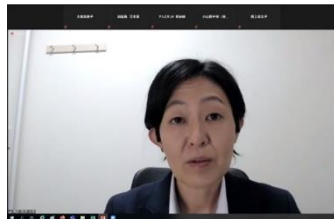
### 佐賀大でLGBTs講演会 多様な性のあり方を考える

佐賀大学は、令和3年ダイバーシティ推進室FD・SD講演会をこのほどオンラインで開催した。学内外から150名を超える参加申込みがあった。

講演会は、参加者全員が安心かつ積極的に参加できるように配慮しながら行い、グラデーショナル代表でダイバーシティ&インクルージョンコンサルタントの藤原快瑤（かよ）氏が講師を務めた。写真Ⅱ。

藤原氏は、LGBTの基本から、当事者がどんなことに困っているのかを分かりやすく説明。藤原講師の話をきっかけに、L・G・B・Tのそれぞれを分けて考えるのではなく、グラデーショナルのように多種多様な性のあり方があるということを学んだ。

さらに、マジョリティからマイノリティを理解しようとするのではなく、すべての人類のなかにある多種多様な性について理解することが大事だと実感する貴重な講演会となった。



令和3年11月15日（月曜日）

文 教 速 報

（第三種郵便物認可）

第9055号 - 7 -